

# 令和6年度 第1回 会津若松市中小企業・小規模企業 未来会議 要旨

日時：令和6年6月14日（金）14：00～16：00

場所：生涯学習総合センター（會津稽古堂）研修室6

## 1 開会

## 2 あいさつ

## 3 協議

会津若松市商工課長 谷ヶ城を座長として進行する。

### ①最近の状況や課題、各団体の取り組みについて

#### 市内の景況は二極化

○景況の良い事業所：コロナ以前の業績に戻っているかそれ以上の業績で推移

- ・ 経営状況を考慮し、販路拡大や新たな事業を検討
- ・ 多くは取引先が県外にもある(都心と地方では景気回復に差がある)

⇓

○景況の悪い事業所：依然として低迷

- ・ 変化への対応や経営改善に向けた行動を起こさず、環境が良くなるのを待っているだけ

#### 二極化はコロナ前から続いている

#### 業種による状況

○運輸業

- ・ 2024年問題で荷物は指定通りには配送できず、料金は2割程度上昇しているが下請けの価格転嫁は利益に反映されていない

○飲食業者

- ・ 原価の値上げは日々あるが、販売価格への転嫁は1、2回程度の実施に留まっている  
→客離れを恐れ、リアルタイムの値上げができず、利益率低下

○建築業

- ・ 住宅の着工件数が減り、それに伴い木材、施工会社の売上が落ちている

○旅行者

- ・ 人流は戻ってきているが、旅行形態が団体から少人数型に変わっており、コロナ以前の業績には戻っていない

## 生活様態の変化

コロナ5類移行後も、飲み会を実施していない事業者、個人的にも飲み会参加自粛を続けている方もいる

また、夜、アルコールではなく食事やコーヒーを楽しむなど、新しい生活様式がコロナを経て出てきた

## 各機関の取組

### ○会津商工信用組合

- ・第20期あいづしんくみ創業塾を5月16日より開始
- ・7月19日(金)にルネッサンス中の島において卒塾生を対象とした、第2回創業塾生交流会を開催予定

### ○あいづ商工会

- ・基本スタンスは伴走であり、経営について共に考える伴走型支援を引き続き実施
- ・補助金等に頼らず、本質的な経営を変える必要がある
- ・災害時事業継続計画の策定支援に取り組んでいく

### ○会津青年会議所

- ・軸は、会員拡大ならびに人材育成
- ・勉強会など自分たちの資質向上のための活動において、青年会議所の意義やこの地で経営をする意義を改めて理解するべく取り組んでいる

### ○会津若松商工会議所青年部

- ・会員、新規入会者へ青年部の意義や活動目的を伝えた上で継続する活動をしながら、会員の資質の向上を目指す

### ○会津若松商工会議所

- ・能力開発や人手不足への対応のためにDX人材育成セミナーを開催
- ・工業部会においてイメージアップのためにSNSを開設

### ○福島県中小企業家同友会会津支部

- ・DXをテーマとし、アクセントと友会の有志メンバーやその会社の社員で毎月リ・スキリングを実施
- ・共同求人委員会では高校生と逆面談会を実施する予定
- ・障がい者雇用委員会では、支援学校の生徒など向けに企業動画を製作
- ・会津大学における経営学の講義を予定

## ②人手不足について

### 人手不足の状況

#### ○人手の不足

- ・ 1人の職員が2部署を兼任する、支店閉鎖による人員再配分などの対策をとっている
- ・ 旅館・ホテル業や飲食業において、人手が足りないために予約が入っても受入れできないというチャンスロスが発生
- ・ 希望する人材とのマッチングは困難と感じる

↓

#### ○人手不足でない事業所もある

- ・ うまくいっている事業所では人手不足とはあまり聞かない
- ・ 設備投資等で対応できている

### 人手不足への対応

#### ○外注

- ・ 雇用だと人件費は固定費となり負担が大きいため、単価は高くとも部分的に外注することを選択する事業者もいる

#### ○組合設立の動き

- ・ 技能実習生関連では組合を組織し、実習生を受け入れる際の管理業務を実施  
→福島県内、会津若松市内でも外国人労働者が増えている印象である
- ・ 特定地域づくり事業協同組合は、過疎地域に移住してきた人が加入して様々な会社で就業する仕組み  
→組合で提供する雇用は多くとも10名程度であり、雇用創出に対するビッグインパクトを期待する仕組みではない

#### ○若者へのアプローチ

- ・ 給与面の次に、そこで働くことのスーテータスを伝える
- ・ 大学生が希望する給与と企業側の認識とのズレを解消する必要がある
- ・ 高校生、大学生に収入だけでなく支出についても知ってもらう

#### ○採用

- ・ 人手は不足しているが、特に技術が必要な職人などは高齢化が進んでおり、例え若い人が入ってきても技術を承継するまでの時間が足りないので採用しないという事業所もある

### ③人材育成について

#### 社員教育

- ・営業での外回りや各種団体の会合への参加により様々な人と会うことで多様な手法を学ばせる
- ・業務をある程度任せて取り組ませてみる、間違いがあれば正す
- ・最初に価値観教育としてマインドの教育。マインドに共感できる人を採用
- ・新入職員に対し、約1か月半超の研修を実施し、配属後の即戦力化を図る  
→同期の仲間意識醸成や親睦を図る目的もある

#### 環境の整備

- ・受け手がハラスメントと思えば、ハラスメントという風潮で叱ることの難しさを感じる
- ・部下は上司の顔色をうかがいながら仕事をしていると伸びないので、上司によって左右される現状がある
- ・従業員を多く抱える企業では、頑張る人を見極め、引き上げることのできる経営者が組織として最大値を引き出している

#### 職業訓練校等の活用

- ・働きながら資格をとるという方法もあるが、小さい企業にその体力はないため、ポリテクセンター等の規模や手法をブラッシュアップすることを含めた、資格取得の支援等を検討する必要がある

### ④その他

#### 市内事業所の状況など

- ・年間休日 120 日以上でないといふ求人に応募がこない  
→土曜出勤があったが休みにし完全週休2日にする、GWを10連休にするなどの対応をしている企業もある
- ・会津の経営者には、若い創業者を育てていこうという雰囲気がある
- ・景気は悪くとも、無くてはならない仕事があり、その中で高齢化が問題  
→従業員の健康問題も企業の喫緊の課題だと感じる
- ・会津には独自の暗黙のルールが存在し、地域外の経営者や若い経営者は戸惑う

#### 未来会議で取り組みたいこと

- ・若い世代(会津大生や会津短大生)との意見交換
- ・実際にビジネスで成功している方との交流
- ・会津で長く経営してきた人と今の若者の考えは違うので、そのギャップを探る
- ・未来会議が学生と企業経営者が交流する場になればいいと思う

## ⑤当日出た議題

### ①地域振興・地域貢献について

自身は部活動の地域移行について行政の考え方と現実のギャップに悩んでいる。皆さんはどのように地域と関わっているか伺いたい

### 地域貢献

- ・ 9月3日を全国で信組の日とし、その前後の土曜日にゴミ拾いを実施
- ・ そこに住んでいる人が自らやることが持続するコツ
- ・ 収入が低くとも地域で支え合って子どもを育てていたの、昔は子どもを産むことに不安がなかった。補助金ではなく地域で育てる雰囲気大事(島根県大森町の例)
- ・ 全国のネットワークで会津をPRしている

### 中学校部活動の地域移行について

- ・ 制度設計が追い付いていない中、やらなければならない期限だけ決まっているので、リスクに対する予防の部分で助言できたらと考えている
- ・ ビジネスになっていくことも重要

### ②ゴミ問題について

家庭ゴミと比較し産業ゴミの割合が高いと感じる

自社では、ダンボールや空き缶を福祉施設へ寄付したり、ゴミ箱を置かないようにしたり、工夫をしている

- ・ 再生資源を24時間回収している事業者がある。このように地域課題をビジネスで解決することは良い流れだと感じる
- ・ 商工会議所の女性会に、市の担当者から事業系ゴミ減量化への協力依頼があった
- ・ 信組では会津管内すべての店舗のシュレッダーゴミを事業者に出し、トイレットペーパーにリサイクルする取組を実施
- ・ 信金では、ペーパーレス・DXの推進をしている。ある支店ではすべての窓口タブレット端末を設置し、紙の伝票を書かない。お年寄りもスムーズに操作していると聞いており、この動きは進んでいくと思われる

ゴミのリサイクルについて連携が図れるか検討することとなった

## 4 その他

会津若松市企画調整課より次期総合計画について説明

## 5 閉会